



用しバーベキュー
(写真上)と、準
一るどのスタッフ
川岩淵関緑地)

予感



青天井

得になるうえ、通常3000円の配送料が無料になり、クーラーボックスや日よけのターフ、1人2本ずつの飲み物も用意される。

準備や後片付けが不要のため、「服装を気にしなくていいし、洗い物をしないでいいのがラク」というのは武政優美さん(26)。肉の量は1人180㍑と少なめだが、宮沢麻実さん(26)は「焼きそばもあるし、これで十分」と満足した様子だった。

平日の売り上げ確保策として、ヒューマンサポートが女子会プランを始めたのは昨年夏。「レストランへ食事に出掛ける感覚でバーベキューを楽しんでほしい」と最寄り駅からバーベキュー場までの送迎にも対応する至れり尽くせりのサービスを打ち出したところ、口コミで評判が広がった。今年8月は女子会プランだけでも予約が約60件に上り、「女性に良さを実

火おこし
荷物運び
力仕事代行で楽々

感してもらっている」と期待を膨らませている。

群馬県長野原町。北軽井沢のキャンプ場「スウィートグラス」を女性2人で訪れたのはともに保育士というさいたま市在住の吉永香織さん(29)と埼玉県鴻巣市に住む金沢優子さん(26)。元同僚の2人は現在も予定を合わせ、ほぼ毎月のように遊びに行くという大の仲良しだ。この夏も海へのドライブ、川でのラフティングを一緒に楽しんだ。

とはいえ、アウトドア派の活動的な2人も何でもこなせるというわけではない。先日、女性ばかり6人で出掛けたバーベキューではどうしても火をおこすことができず、通りがかりの男性に助けの手を借りた。そんな経験もあって、「女性同士でキャンプに行くことができるなんて、思ってもいなかった」という。

スウィートグラスを運営する、きたもっく(群馬県長野原町)が女性向けに「お姫様キャンプ」を始めたのは2009年から。自炊が基本のキャンプも「お姫様、向けは心配無用。夕食のバーベキューはキャンプ場のスタッフがコンロの火をおこしから調理、片付けまですべて請け負う。

吉永さんらが利用した9月末までの「夏姫キャンプ」は1人1泊1万1000円からという料金設定。昼過ぎに車でキャンプ場を訪れた2人はハンモックに揺られたり、ブランコに乗ったり、記念の写真を撮り合ったりと、夕食までの時間をのんびり過ごした。宿泊する

キャビンのデッキに用意されるバーベキューはサラダから始まり、デザートのパナコッタまでフルサービス。朝食もサンドイッチのバスケットがキャビンに届いた。

「山ガール、森ガールは増えても、キャンプ場にまでやって来る女性グループはなかった」と話すのはスウィートグラスの梶野寛丈統括マネージャー。お姫様キャンプは「ハードルを低くすることで女性にも気軽にキャンプを楽しんでもらおう」と企画した。この夏の申し込みは40件。学生時代の同級生といった3〜4人のグループが多いという。

ほかにも女性同士で気軽に参加できるアウトドアのレジャーは増えている。群馬県みなかみ町にある奈良俣ダム。ダム湖の「ならまた湖」などを巡るレイクウォーク(群馬県みなかみ町)のカヌーツアーにはこの夏から「アウトドア女子会カヌープラン」(料金は1人5500円)が登場した。通常の半日探検ツアーと同じタイムスケジュールで距離を短めに設定し、湖上で手作りスイーツを味わうといった趣向を盛り込んだ。

電通総研の大屋洋子主任研究員は「女子会を心地よいと感じるのは同性同士のほうが気楽なうえ、細かいところに気づいてもらえるから。力仕事などを代行するサービスが広がれば、アウトドアでの女子会はますます広がるだろう」と指摘する。消費意欲旺盛な行動力のある女性たちがアウトドアでも新しい女子会市場を創り出していきそうだ。(中村奈都子)



「お姫様キャンプ」では男性スタッフがバーベキューの火おこしから調理までを担当する(群馬県長野原町の「スウィートグラス」)